

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800546		
法人名	医療法人 徳祐会		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	島根県邑智郡邑南町山田76番地2		
自己評価作成日	平成26年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3271800546-00&PrefCd=32&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市宗像53番地46		
訪問調査日	平成26年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活を大切にしながらも、共同生活のよさを生かして、利用者同士の助け合いの場面も多くみられる。協力して作品を仕上げたり、自分の出来ることを手伝ってくださったり、教えあったりされている。職員は利用者一人一人が楽しく穏やかに、その人らしい暮らしが出来る様に、声をかけ寄り添いながら接するように努めている。あすなろの周囲に畑や花壇があり、季節の野菜や果物、花を栽培している。天気の良い日には、日光浴や草取り、畑の手入れ、収穫など戸外で過ごす時間を楽しんでいる。また、散歩や買い物等気候の良い日には、出かけるようにしている。毎月行っている誕生会はおやつを手作りにして喜んでいただいている。お楽しみ献立には、利用者の希望を取り入れ、酒等の飲み物を準備して楽しんでいただいている。また、地域の行事である「まんぷくまつり」にも今年度も踊りで参加

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの周辺は病院や商店、公共施設等があり生活や地域と交流がしやすい場所である。利用者は職員と一緒に調理、後片付けや洗濯物を干したり、たたんだりと共同生活のよさを感じられるホームである。職員は利用者と一緒に食事をされ会話を楽しまれ家庭的な雰囲気である。身体的な介護度が低い利用者が多く利用者と職員は笑顔がよく楽しく共同生活をされていると感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝目標として理念を読み上げ、意識づけしている。介護理念の月ごとに自己評価し、利用者にとってよりよい対応をしようと努力した。	毎朝目標としている理念を読み上げ意識付けをしている。介護理念について毎月テーマを決め全職員で評価をし実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関を掃いていただいているときや日光浴をしているときには通りかきの方と挨拶をしたり、話しかけられたりしている。地域のお祭り「まんぶく祭り」に踊りで参加している。地域商店街と一緒に買い物にでかけている。中学生の吹奏楽演奏会党にも参加している。	利用者は玄関で掃き掃除をしている時や日光浴をしている時に近所の方と挨拶をしたり話をしたりする。知り合い、親戚の方が面会に来られたりもある。地域の「まんぶく祭り」に踊りで参加している。天候のよい時は近所の散歩をしたり、ホームから近いスーパーに買い物に出かけ交流がある。医院受診時に顔馴染みの方と挨拶をしている。地域の保育園児と年1回交流があり、中学生とは職場体験や中学生の吹奏楽演奏会などで交流がある。ボランティアの尺八演奏があり楽しまれた。介護相談員が月2回訪問され相談やお話をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、ステージで踊りを発表することで一般の方たちからの認知症に対する理解が明るいイメージに受け止められているように思う。買い物等に出かけた際も温かい目で見守っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、行事の報告や取り組みの実際を話している。意見等、代表者とも話し合いの中から気づかされたことを行なうようにしている。	2ヶ月に1回開催。地域代表、包括支援センター職員、家族、利用者参加。生活状況、行事、地域との交流、避難訓練等報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の中に包括支援センターの職員(役場職員)がおられるので、意見を聞かせていただいている。また、訪問調査等でこられたときにも情報を共有したり、町の検診にも積極的に受診している。	運営推進会議には包括支援センターが参加される。認知症通所介護の様子を聞かれる。肺炎球菌の補助が町からあり接種された。事故報告、県の研修案内があり参加している。介護相談員の派遣も受入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がないように、勉強会を設けたり話し合いをしている。夜間以外は、玄関の施錠をしていない。	法人の身体拘束、接遇の研修に参加している。職員はスピーチロックは日頃から意識をされており、理解しているので振り返りをし繰り返さないよう注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように勉強会を設けたり、日頃の対応について、お互いに話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明文書を持参して説明に行ったり、来ていただいたときに話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ意見を聞かせていただけるように面会時に声をかけたり、電話連絡時に話を伺うようにしている。	家族の面会時や月に1、2回意見、要望を聞いている。遠方の家族には電話連絡時に意見、要望を聞いている。アンケートで職員が名札をつけていない名札を付けて欲しいとあった。	家族や面会者に分かる場所に、職員の写真と名前を掲示してお知らせしてほしいか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの中で、提案や意見があるときには発言してもらうようにしている。不在のときはノートに記載してもらい検討している。	職員会議やカンファレンスで意見や要望を聞き検討している。賞与支給時に法人専務が職員と面談し話を聞いている。管理者は職員に対しケアについて相談にのったり助言している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価を数人でおこなっており、賞与等で反映してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して研修の計画(外部)をしている。法人内では、研修委員会が設置され、毎月30分の勉強会が2箇所である。また、カンファレンスの時間にケアについて話し合いを持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修会へ参加する中で、他の介護職員との交流を図ってもらっている。また忘年会や旅行等で交流をしている。外部研修時には他の同業者とグループワーク等で交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ寄り添い話を聞いて不安を取り除くようにしている。行動を特に注意しながら他の利用者様とも打ち解けることができるように声をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることを伺っている。また今後どうしてほしいか希望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた際に、困ったことを伺うとともに、すぐにできることや、他のサービスの話もしている。通所において、ヘルパーや、ケアマネと同行して顔なじみになれるように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士がお互いに声をかけたり、作業等を一緒にしている。また、入居利用者様が通所の利用者様に声をかけていただいて安心される事も多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊をしていただきながら絆を強めていただいている。電話がしたいときは手伝ってかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2丁目、葬儀に参列されたり、ふれあい大会等の老人会に参加されている。また結婚や出産祝い、お歳暮等を贈っている方もいる。面会に来られたときは、一緒にお茶を飲んで話をしてもらったり外出時に懐かしい方と出会ったときは話の仲介をしている。	2丁目ユニットの方で友人の葬儀に参加されお別れをされた方もある。地域のふれあい大会など老人会に参加され交流がある。馴染みの美容室、理容室を利用される方、地区の商店に買い物に行き馴染みの関係が続いている方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話を持てるようにできるだけ話題を皆さんにふるようにして職員がかかわっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会った時や、通りがかった時には、声をかけている。担当のケアマネから、情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ意向に沿うように話をしっかり聞き、対応しようとしているが難しい場面もあり、カンファレンス時に検討するようにしている。急ぐ場合は、一人で判断せずに数人で考えるようにしている。	日頃の会話の中から聞き取り把握している。困難な方は今までのアセスメントやケアの中から判断されている。カンファレンス時に検討されるようにされている。	レクリエーション時にカードに好きな食べ物や行きたい場所などを書き込みゲームの中から思いや意向、希望の把握するなど検討されてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集してフェイスシートに残し、閲覧できるようにしている。また、そのつど本人に伺ったことを口頭や、個人の記録で伝えることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の準備や掃除等できるだけ一緒に行っている。できることは、カンファレンスで統一してやってもらう様に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時家族や本人にも相談はしている。その後職員で考え、本人家族に返すようにしている。	週1回カンファレンスを行い検討されている。モニタリング、評価はカンファレンス時、月1回行われ、必要時には計画変更が行われる。サービス内容の記録は表特記事項に記載されていることが確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報はカンファレンスシート等で共有するようにしている。また、カンファレンスで見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所の方には、休むと言われても、訪問して具合等を聞くようにし、来ていただけるようになじみの関係作りをする。葬式等の送り迎えをしたり、香典等を立て替えて送る等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や友人、美容院、商店街等なじみの関係で声をかけてくださったり、保育園とも連絡を取り行事に参加したり、来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三上医院、富永歯科、前眼科、邑智病院等必要時、往診してもらったり受診の支援をしている。	協力医である三上医院の往診が毎週金曜日に行われている。眼科や邑智病院など必要時受診の受診の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り等で情報を得るようにしている。また、職員が気がついたことは早めに看護師に報告してもらうようにしている。バイタル測定、観察をして、必要時主治医に報告して早めに受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師と連絡を取りながら対応をするようにしている。申し送り矢、病院側の、日頃の様子を書く、文書を作成して渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の状況等を話しあうようにしている。必要があれば主治医にもかかわってもらい、本人にとってよりよい介護のできる場所を相談させていただいている。	現在看取りはされない。看取りの状態になった時には、本人や家族の要望を聞いている。系列の病院や老人保健施設に入所される方が多い。利用者や家族が望めば看取りも検討される。看取りの資料もあり職員は読み合わせをしている。	終末期のケアについて看護師を中心に職員の心のケア、死生観の研修をされても良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法を消防署の職員に来ていただき訓練した。急変等(意識消失)がおきた時は、そのつどどうすればいいかを確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。緊急連絡網を作っている。地震や、水害については避難経路をどうするか職員で話し合った。	消防訓練は年2回、消火訓練を消防署と、避難訓練は事業所のみで行われている。備蓄は米1年間分、味噌、つくだに、ラコール、水を三上医院に準備している。防災の為に浴槽に常に水を張っている。	夜間の安全対策のことも考えて、夜勤体制については、サイド検討されると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ相手の立場を考えて接するようになっている。特に排泄や入浴場面では気を使いながら、清潔が保てるように配慮している。	プライバシーを損ねない声かけの対応をしている。プライバシー保護や接遇の研修を行い職員は理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩等でかける前に意向を聞きながら対応している。やりたい事ややりたくない事等も行なう前に意向を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを保ちながら、利用者の意向を聞き入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2丁目好きな美容院に出かけている。化粧品も今までしておられた方はされている。服装も一緒に選んでもらっている。鏡をできるだけ見て声をかけて気づいてもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事には、利用者とともに準備配膳している。1丁目肉が嫌いな方には違う食材で対応したり、見かけで判らない物は食べていただける事もある。話をしながら食事をしてもらっている。	献立は法人内の栄養士が作成されホームで食事を作っている。配膳、食器洗い、拭き、テーブル拭きなど職員と共に行っておられた。訪問当日は誕生会が行われメレンゲ作りなど職員と共に楽しく作られていた。食事は職員も一緒に食べ会話を楽しんでいる。花見など行事で出かけた時には弁当を食べて楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士にメニューをお願いしている。約1500kcal/日に設定。DM等があつたり少食の方には、ご飯やおかずをすくなくしたりしている。一緒に食べる中、切ったり、ほぐしたりして食べていただくように声をかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけて、行ってもらっている。自分の歯がある方には、時々点検をして磨かせていただいている。義歯の洗浄時、義歯の点検磨きをさせてもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。紙パンツの方も、日中は、布パンツで様子を見ている方もおられる。	排泄チェック表を活用しトイレで排泄介助が行われている。布パンツ、リハビリパンツ、安心パンツ等個々に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の効き目を見ながら飲んでいただいている。水分摂取や体も動かすようにしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に安全のため日中(午後)に入っているが、午前中に入りたい等いわれたときにはできるだけ対応している。	午後入浴を行っている。希望で午前入浴も対応している。1日おきの方もあるが2~3日に1回入浴を行っている。拒否の方は職員の対応方法をかえたりすることで入浴される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たそうにしておられるとき等には、声をかけて休息していただいたり、夜間眠れないときには、少しそばに付き添って話を聞いたり、添い寝をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が追加になったときに、そのつど薬の説明書をみれるように、申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同、個々の作品を準備したり、畑や花壇を整備したりして、役割が持てるように努めている。ゲームや歌体操等を取り入れて楽しい時間を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、職員でドライブや買い物等の支援をしている。普段いけないようなところは、ご家族にお願いしている。	近所の散歩、家族、職員でドライブをされる。ふれあい公園、元旦の初詣、季節の藤だなの花見など希望に沿いながら外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたいときには、一緒に買い物に出かけたりしている。お金を持って出かける方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話等をかけていただいている。贈り物が届いたときは、必ず電話をしていただくようにして話の仲介をする事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や花等を飾っている。共同のトイレは時々職員が確認し汚れていれば随時掃除をしている。浴室は冷暖房完備で、気持ちよく入浴していただけるように温度等の配慮している。	玄関に季節の花が生けられていた。入所者の作品の飾りである。居間には暖炉やソファがありテレビを見ながらくつろげる空間がある。台所の流しの高さも入居者の背の高さにあわせてあり使いやすい工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるソファや、畳があるコタツスペース、食堂のスペース等好きなところで、好きな方とゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、(たんすや布団の場所等)在宅の様子を聞きながら、できるだけ似た場所におくようにしている。仏壇や桐のたんす等家で使っているものを持ってきていただいている。	居室は全室畳である。希望でベッド使用もされている。自宅から持ち込んだコタツを使用されたり、仏壇を持ち込まれるなどまるでご自宅の部屋のように居心地良く、安心な生活を送っておられる様子が伺えた。各部屋の入り口には竹で玄関のような作りがされていてプライバシー保護となっているように感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者用の調理台があり、味噌汁の具財等を切ったり、米を研いでいただいている。居室内に洗面所とトイレがあり、自分できるように場所名を記載したりして工夫している。		